平成17年第4回美郷町議会定例会

議事日程（第3号）

平成17年6月10日（金曜日）午前10時開議

- 第 1 議案第51号 秋田県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び秋田県市町村総合事務組合同約の一部変更について
- 第 2 議案第52号 秋田県市町村会館管理組合を組織する地方公共団体の数の減少について
- 第 3 議案第53号 秋田県町村土地開発公社定款の一部を改正する定款
- 第 4 議案第54号 美郷町国民健康保険税条例の制定について
- 第 5 議案第55号 工事請負契約の締結について
- 第 6 議案第56号 平成17年度美郷町一般会計補正予算第1号
- 第 7 議案第57号 平成17年度美郷町国民健康保険特別会計補正予算第1号
- 第 8 議案第58号 平成17年度美郷町簡易水道事業特別会計補正予算第2号
- 第 9 議案第59号 平成17年度美郷町下水道事業特別会計補正予算第1号
- 第10 議案第60号 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
- 第11 議案第61号 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
- 第12 請願第 4号 定率減税の縮小・廃止の中止を求める意見書採択に関する請願
- 第13 陳情第 1号 「市場化テスト」や「給与構造見直し」に反対する意見書の採択を求める陳情
- 第14 陳情第 3号 公共サービスの低下をもたらす「市場化テスト」（官民競争入札）の反対を求める陳情書
- 第15 陳情第 4号 住民の生活と地方経済を悪化させる公務員賃金の「地域給」反対を求める陳情書
- 第16 陳情第 5号 確実な税源移譲、交付税の拡充による自治体財政の確立、公務・公共業務を後退させる「市場化テスト」反対、地域経済等に悪影響を及ぼす「給与見直し」に反対することを求める陳情書
- 第17 陳情第 8号 国土調査事業の県内業者育成に関する陳情書
- 第18 陳情第 9号 「骨太方針2005」において住民本位の地方財政確立に向けた意見書採択

を求める陳情書

- 追加日程第 1 発議第 6号 美郷町議会委員会条例の一部改正について
- 追加日程第 2 発議第 7号 美郷町議会会議規則の一部改正について
- 追加日程第 3 発議第 8号 公共事業全体枠の確保を求める意見書の提出について
- 追加日程第 4 発議第 9号 住民の生活と地方経済を悪化させる公務員賃金の「地域給」に
反対する意見書の提出について
- 追加日程第 5 発議第 10号 確実な税源移譲、交付税の拡充による自治体財政の確立、地域
経済等に悪影響を及ぼす「給与見直し」に反対することを求め
る意見書の提出について
- 追加日程第 6 発議第 11号 定率減税の縮小・廃止を中止することを求める意見書の提出に
ついて
- 追加日程第 7 発議第 12号 「骨太方針 2005」において住民本位の地方財政確立に向けた意
見書の提出について
- 追加日程第 8 委員会報告第 3号 委員会調査報告書（総務常任委員長）
- 追加日程第 9 議員派遣の件について
- 追加日程第 10 閉会中の継続審査及び継続調査について

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（４３名）

1番	福田	守君	2番	煙山	多三郎君
4番	鈴木	一君	5番	村田	薫君
6番	小西	文男君	7番	谷屋	誠市君
8番	田口	繁男君	9番	中村	利昭君
10番	吉野	久君	11番	小田	長輝一君
12番	泉	繁夫君	15番	高橋	猛君
16番	戸澤	勉君	17番	久米	章弘君
18番	高橋	隆治君	19番	泉谷	理毅男君
20番	伊藤	福章君	21番	熊谷	良夫君
22番	齊藤	新一郎君	23番	森元	利漠君
24番	泉	美和子君	25番	高橋	正治君
26番	山田	鐵之助君	27番	高橋	福松君
28番	藤田	亥左夫君	29番	若畑	文英君
30番	高橋	久男君	31番	森元	淑雄君
32番	武藤	健君	33番	永井	久雄君
34番	熊谷	隆一君	35番	佐々木	正君
36番	佐藤	倉一君	37番	中村	美智男君
38番	戸沢	藤一君	40番	斉藤	正衛君
41番	深沢	義一君	42番	澁谷	俊二君
43番	飛澤	龍右工門君	44番	杉澤	隆一君
46番	竹村	由広君	47番	伊藤	光明君
48番	後松	一成君			

欠席議員（５名）

3番	佐々木	順吉君	13番	大久保	伸一君
14番	武藤	威君	39番	佐藤	時夫君
45番	半田	秀雄君			

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町長 松田知己君 助役 佐々木敬治君

収 入 役	坂 本 昇 一 君	町 長 公 室 長	二 藤 誠 祥 君
総 務 課 長	森 川 福 蔵 君	企 画 課 長	小 原 正 彦 君
税 務 課 長	深 澤 章 一 君	住 民 生 活 課 長	鈴 木 四 郎 君
総 合 サ ー ビ ス 課 長 (六 郷 庁 舎)	飛 澤 明 則 君	総 合 サ ー ビ ス 課 長 (千 畑 庁 舎)	中 野 弘 君
総 合 サ ー ビ ス 課 長 (仙 南 庁 舎)	樋 場 雄 一 君	福 祉 保 健 課 長	辻 一 志 君
農 政 課 長	深 澤 廣 君	商 工 観 光 課 長	小 林 宏 和 君
建 設 課 長	照 井 一 夫 君	国 体 準 備 室 長	渋 谷 喜 一 君
出 納 室 長	大 澤 薫 君	農 業 委 員 会 会 長	星 山 正 美 君
農 業 委 員 会 事 務 局 長	山 内 英 世 君	教 育 委 員 長	清 水 猛 君
教 育 長	高 橋 福 雄 君	学 務 課 長	高 橋 薫 君
社 会 教 育 課 長	小 松 清 君	幼 児 教 育 課 長	泉 谷 隆 雄 君
代 表 監 査 委 員	久 米 力 君		

職務のため出席した者の職氏名

事 務 局 長	武 藤 久 男	参 事	渋 谷 新 一
局 長 補 佐	田 中 まき子	局 長 補 佐	久 米 良 子
上 席 主 任	大 澤 修		

開議の宣告

○議長（後松一成君） 定刻並びに出席議員が定足数に達しておりますので、ただいまから会議を再開いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に差し上げております日程表のとおり進めたいと思います。

（午前10時00分）

議案第51号の質疑、討論、採決

○議長（後松一成君） 日程第1、議案第51号 秋田県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び秋田県市町村総合事務組合同約の一部変更についてを議題といたします。

この議案については既に説明が終わっておりますので、直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 討論なしと認めます。

議案第51号についてこれより採決いたします。

お諮りいたします。議案第51号について原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 異議なしと認めます。

よって、議案第51号 秋田県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び秋田県市町村総合事務組合同約の一部変更については、原案のとおり決しました。

議案第52号の質疑、討論、採決

○議長（後松一成君） 日程第2、議案第52号 秋田県市町村会館管理組合を組織する地方公共団体の数の減少についてを議題といたします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 討論なしと認めます。

議案第52号についてこれより採決いたします。

お諮りいたします。議案第52号について原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 異議なしと認めます。

よって、議案第52号 秋田県市町村会館管理組合を組織する地方公共団体の数の減少については、原案のとおり決しました。

議案第53号の質疑、討論、採決

○議長（後松一成君） 日程第3、議案第53号 秋田県町村土地開発公社定款の一部を改正する定款についてを議題といたします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 討論なしと認めます。

議案第53号についてこれより採決いたします。

お諮りいたします。議案第53号について原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 異議なしと認めます。

よって、議案第53号 秋田県町村土地開発公社定款の一部を改正する定款については原案のとおり決しました。

議案第54号の質疑、討論、採決

○議長（後松一成君） 日程第4、議案第54号 美郷町国民健康保険税条例の制定についてを議題といたします。

質疑に入ります。質疑ありませんか。

32番、武藤 健君。

○32番（武藤 健君） この議案に対してどのような趣旨で税率を決定したか説明いただきたい。

○議長（後松一成君） どなたが答弁すればいいですか。（「どなたでも関係のある方」の声あり）

税務課長。

○税務課長（深澤章一君） おはようございます。武藤議員のご質問にお答え申し上げます。

納税者にとりましては1円でも税負担が軽減されればそれにこしたことはないと思います。このことを踏まえまして住民生活課の方から国保税の所要額を示されましたのでその額に合わせまして地方税法に規定します応能、応益の割合をもとにいたしまして十数種類の試算をした結果、高からず、低からずということで旧3町村の16年度税率のほぼ平均値を左右する形をとったものでございます。

○議長（後松一成君） 32番。

○32番（武藤 健君） 旧六郷地区は少々高かったのか、安くなってありがたいなどは考えておりますが、仙南、千畑については上りますよね。

○議長（後松一成君） 税務課長。

○税務課長（深澤章一君） 旧3町村のそれぞれの地区を試算しますと、平均値でございますけれども医療、介護合わせまして千畑地区につきましては16年度と比較しまして約1万9,000円減、それから六郷地区につきましては約8,300円の減、仙南地区につきましては約1万8,500円の減とそれぞれ旧3町村とも減少しておりますところでございます。以上です。

○議長（後松一成君） 32番。

○3 2 番（武藤 健君） 減とおっしゃいますが、私が私の税を旧千畑町方式に合わせますと下がります。仙南村方式でも少し下がります。ところが、今回の税率改正によりますと、千畑、仙南は私の税の負担を合わせたんですが、上がったようでしたが、これは間違っていましたか。おれの計算が間違っていたかな。

○議長（後松一成君） 税務課長。

○税務課長（深澤章一君） 一人一人のケースによっては上り下りがありますけれども、私が今申し上げましたのはあくまでも平均的な話をしたものでございます。以上です。

○議長（後松一成君） 22番、齊藤新一郎君。

○2 2 番（齊藤新一郎君） 私も今、武藤議員のとおり質問したいと思っておりましたけれども、今質問されてそのことはわかりました。それで、この国保の件につきまして国保運営協議委員というものを設けているわけですが、この国保税に対してもこの協議委員の方々が担当課長なりいろいろな方々と会議するものか、差し支えなければお答え願いたい。差し支えあれば別に特別聞きたいとは思いません。

それから、町の住民の方々が非常に国保税に泣かされておるといふか、町の方では特別に悪いことをしているわけじゃございませんし、法律によって取るものだと、こういうふうにも思っております。しかしながら、町の方でこの国保税に対して住民に対する軽減措置、この対策を講じておるのかおらないのか、この2点をお聞きしたい。まず担当課長をお願いします。

○議長（後松一成君） 住民生活課長。

○住民生活課長（鈴木四郎君） お答え申し上げます。最初のご質問の国保運営協議会の会議の件でございます。6月2日3時から運営協議会を開催いたしまして案を諮問してございます。会議の結果、案どおりの了解を得まして答申を受けることとなっております。

○議長（後松一成君） 税務課長。

○税務課長（深澤章一君） 2点目のご質問にお答えいたします。軽減の関係でございますけれども、今回の条例の第16条ですけれども、5ページからですけれども、16条の第1項第1号、これはこの前もお話ししましたように、いわゆる7割軽減でございます。それから第2号が5割軽減、それから第3号が2割軽減とそれぞれ低所得者に対しては軽減措置があるということでございます。以上です。

○議長（後松一成君） 22番。

○2 2 番（齊藤新一郎君） 今のご答弁で大変結構だと思います。せんだっての基本計画、これは美郷町に住んでよかったなという町にするのは余り住民から銭っこを取らないようにしてひとつ

頑張っていたきたい。以上でございます。

○議長（後松一成君） ほかにございませんか。

15番、高橋 猛君。

○15番（高橋 猛君） 介護保険関係について伺いたいと思います。全国的に介護給付がふえてきているという状況で決算状況を見ますと、赤字の組合がかなりふえてきているというお話がございます。秋田県内でも35団体、組合の中で5組合が赤字決算であったというような報告がございました。大仙、美郷もたしか見込みの段階でそういうような状況になるのではないかというように話で、基金の取り崩しで対応するというふうな話がたしかあったように記憶しておりますけれども、大仙、美郷の介護保険の組合の状況はどういうふうになっているのかということと、それから、医療費、介護部分についても先ほど申しましたように介護給付費がふえるだろうという予測がございましたので今回も増になるのではないかというふうに思っておったんですが、結果的に配慮いただいて負担を軽減していただいたという結果になっておるようですが、この要因といたしますか、要素について伺いたいと思います。以上です。

○議長（後松一成君） 福祉保健課長。

○福祉保健課長（辻 一志君） ただいまのご質問についてお答えいたします。ご存じのとおり、広域で介護保険事業を運営しているわけがございますけれども、最近開かれた担当課長会議の席上ですけれども、16年度分については5%の調整交付金というのがございます。これを超えた額で決定になったということで黒字の見込みであると聞いております。まだ正式な報告は受けておりません。以上です。

○議長（後松一成君） いいですか。もう1点。質問の要旨がわからないようなので、もう一回質問してもらいますか。

○15番（高橋 猛君） 趣旨が伝わらなかったようで、先ほど申しましたが、介護負担も大分大きくなってきているという中でことしも介護保険の負担は大きくなるのかなというふうに思っておったんですが、結果的に医療費同様、介護保険も負担を低く抑えてくれたようです。結果的には、先ほど医療費でも説明がありましたが、いろいろな算定に基づいてこういう結果になったというふうに思いますが、そこら辺の考え方について伺いたいということでした。

○議長（後松一成君） 住民生活課長。

○住民生活課長（鈴木四郎君） お答え申し上げます。今、税の絡みというとらえ方をしておりましたのでまことに失礼しました。今、高橋議員の方からご質問ありました件についてちょっと的を外しているようであれば再度お聞きされたいと、そういうふうに思います。介護保険の税につ

いても医療分と同様にとらえまして合併後1年を通した年度というとらえ方で先ほど税務課長から話しありましたとおり、中間の率を用いて算出したところでございます。ただし、先ほど来、申されておりますとおり、介護納付金等についてはかなり上がってきてまして、当初予算でも説明いたしましたけれども上がってきているところはそのとおりでございます。ただ、税については今申し上げましたとおり算出したところでございます。

○議長（後松一成君） 高橋福松君。

○27番（高橋福松君） 私の方から今の保険税の条例のことでお伺いいたします。高橋議員と似たような質問になると思いますけれども、平均して試算が10ぐらい出てやったという話でございますけれども、これを見ますと、応能の方では確かに低くなっているように感じます。それから全体を見て1万幾らとなっておりますけれども、応益の方では今現在、農家の方々でも消費税が3,000万円から1,000万円、または配偶者控除、特別控除とかそういうものがなくなって税負担が非常に多くなってきております。その中で応益の方では、いわば所得のある人からはたくさんいただくという形で取られるような感じがしてならないわけです。これからいきますと、平均しても介護なんかも非常に所得の方では高くなっております。その辺がちょっと私はどうしてこういう、ただ平均してやったのかな。全体では低くなる低くなると言いますけれども、これではいわばお金のある人からはたくさんいただきたいという形の試算ではないかなと思っておりますけれども、その辺の経緯と申しますか、さっき説明されたと思いますけれども再度その点をひとつお願いしたいということ。

もう1点は、それではこれで医療、介護、合わせて最高限度額は一体試算としてどのくらいなるのかということがもしわかっておりましたらよろしくご答弁のほどをお願いします。この2点をお聞きしたいと思います。以上です。

○議長（後松一成君） 税務課長。

○税務課長（深澤章一君） お答えいたします。応能と応益の割合でございますけれども、この前、お配りしました資料の2ページに書いておりますけれども、応能は47、医療と介護同じですけれども応益の方は53%ということで、応能の場合は今、高橋議員がおっしゃいましたとおり、所得があれば、いわゆる能力があればということですのでそれは47ということですので低いんではないかと思えます。

それから、限度額でございますけれども、医療の分につきましては5万円、それから介護につきましては8万円ということで合わせまして6万円ということでございます。試算した結果ですけれども、今回は医療につきましては48世帯、介護につきましては24世帯でございます。

○議長（後松一成君） いいですか。（「はい」の声あり）

ほかにございませんか。24番、泉 美和子君。

○24番（泉 美和子君） 今回の応能、応益割のことについてですが、応益割が旧千畑などにとって見れば上がっていることになりまますけれども、低所得者に対する負担が大きくなるということになると思いますが、もちろん、法定減免などもあるわけですから、考え方、試算に当たったの考え方。

それから合併でまず負担は低くと言ってきたわけですが、一番低いところに合わせた場合にどうだったのか、医療費の伸びとか計算してももちろん試算するわけですが、そうなったときにはどのくらいのお金が足りなかったのか、そういう点をお伺いいたします。

○議長（後松一成君） 税務課長。

○税務課長（深澤章一君） 応能、応益につきましてはただいま私の方から説明したとおりでございまして、これは地方税法に規定されておまして50、50というような数値になってございます。必ずしもこういくか、なかなか50、50にはいかないわけですが、今回試算した結果、47と53%というふうになったわけでございます。

それから一番低いところに合わせた数字ということですが、千畑ベースで試算してみますと、これは住民生活課の方で試算したわけですが、1億3,700万円ほど減になるというような結果になっております。以上です。

○議長（後松一成君） 24番。

○24番（泉 美和子君） この一番低い方に合わせた場合の財源問題として、今回も基金から1億1,000万円取り崩してやっていますけれども、この低い方に合わせてもできたのではないのでしょうか。

○議長（後松一成君） 税務課長。

○税務課長（深澤章一君） 基金の残高は議員ご承知のとおり、2億2,200万円ございます。今回、その約半分を取り崩してございまして、さらに今言った1億3,000万円云々の額を崩すとすると、それは基金の範囲内ではできないのではないかなと、このように思います。以上です。

○議長（後松一成君） ほかにございませんか。

16番、戸澤 勉君。

○16番（戸澤 勉君） 今回のこの件に関しましては大分思いやりがあったのではないかと、いうふうに評価します。そのように基金を大幅に崩すということで低い方に合わせたということではかなりの英断があったというふうに評価したいと思います。それで、今でなくても結構なんです

が、この基金の残高の旧町村の残高をお知らせ願いたいと思います。また、繰越金においてもその見込みを3町村ごとにお願います。それらをもってどこがどういうふうにこれまで差が大きく出てきておったのかというような判断も少しは必要ではないかというふうに思います。その中において言うべきことは言うということであってほしいものだなというふうに思います。以上です。

○議長（後松一成君） 住民生活課長。

○住民生活課長（鈴木四郎君） お答え申し上げます。基金の平成16年度末の見込みでございますけれども、専決でご報告申し上げたとおりでございます。末には2億2,200万円、それで合併時に持ち越された基金の額でございますけれども、千畑地区が1億683万7,799円でございます。それから六郷地区でございますけれども3,000万円、仙南地区が8,500万円、合計で2億2,183万7,799円と、そういうふうになってございます。

○議長（後松一成君） 24番、泉美和子君。

○24番（泉美和子君） 先ほどの基金の問題ですけれども、今回の町のももちろん努力は認めるものですが、国保税は大変重税感があるものでございます。ましてや今、こういう景気の低迷の状態の中で国保加入者にとっては少しでも安くしてほしいというのが切実な声であります。旧町村の時代も私も主張してきましたけれども、基金をこれが多過ぎるとか全くためるなということでは決してなりませんけれども、こういう経済状況の中では本当に住民負担軽減を最大限の努力をしていく、それから合併でやっぱり負担を低くと言ってきた、このことを考えてみますと、今の町の努力はもちろん認めるわけですが、もっともっと安くしていくことが住民の願いにこたえることに私はつながるのではないかと。国保の性質として基金をためていくことに対しては、先ほども言いましたように、全くためるなということではありませんけれども、こういう状況の中では十分活用し、負担軽減に努めていくと。そして、本当に財政が足りなくなったら一般会計からの繰り入れなど行っていく、こういうことが私は求められていると思うんですが、町長にこの考え方についてお伺いいたします。

○議長（後松一成君） 松田町長。

○町長（松田知己君） 議員の貴重なご意見として賜っておきます。

○議長（後松一成君） 24番。

○24番（泉美和子君） いや、町長の考え方をお伺いしているんですが。

○議長（後松一成君） 松田町長。

○町長（松田知己君） 基金についての考え方でしょうか、国保会計の運営についての考え方です。

ようか。

○議長（後松一成君） 24番。

○24番（泉美和子君） そうです、国保会計の運営です。基金を含めたり、あと足りなくなったりしたときの考え方です。

○議長（後松一成君） 松田町長。

○町長（松田知己君） 特別会計についてはそれぞれ独立して会計が成り立つように財政運営をするのが基本でありますので、そのようにご理解いただきたいと思います。

○議長（後松一成君） 10番、吉野久君。

○10番（吉野久君） この国民健康保険そのもののシステムは、本来は加入者の掛金によって賄うべきところだとは考えますが、それに対しまして国、県等の補助金がございます。制度上、いろいろな補助金がございますし、また町としても保険税率そのものを決めなければいけないと。決めるところは応能、応益割合、それぞれを勘案しながら本来ならば50/50にしなければいけないところをいろいろ勘案し、今回の形になったことだと思います。それにつきましては確かに負担が上がる人もいますが下がる人もございます。これはどこに落ち着こうがそういう方があると思います。今回のこの保険税もそうですが、この後の補正予算の国保税条例激変緩和ということで町としては多額なというよりも、非常に加入者に対して優しい措置をとっているなど私は考えますけれども、いかがでしょうか。

○議長（後松一成君） 答弁。（「答弁要りません」の声あり）

21番、熊谷良夫君。

○21番（熊谷良夫君） 先ほどからの説明を聞きますと、大体平均をとったような説明でしたけれども、議案の57号の金額なんかと資料なんかを見ますと、どの町村も平均では下がっておりますし、先ほど言いましたように、千畑方式でやっても1億3,000万円くらい不足となっておりますけれども、今回の57号の予算では1億4,400万円のマイナスになっておりますけれども、私、大変勉強不足ですけれども、実際は平均よりもさらに下げた税率なりなんなりになっているのではありませんか。

○議長（後松一成君） 答弁。住民生活課長。

○住民生活課長（鈴木四郎君） お答え申し上げます。私、説明がちょっと不足して誤解をいただいているところがあるので、国保税の減額、1億4,200万円になってございます。基金の取り崩しをお願いしている部分が1億1,000万円になってございます。この差額については老人保健拠出金が減額になったことによりまして約3,000万円ほど税に依存している部分が減額に

なった分、これも含めて1億 4,200万円、こういうふうになってございますので、税の率が下がったことによる金額が合致するわけではありません。

○議長（後松一成君） ほかにございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 討論なしと認めます。

議案第54号についてこれより採決いたします。

お諮りいたします。議案第54号について原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 異議なしと認めます。

よって、議案第54号 美郷町国民健康保険税条例の制定については原案のとおり決しました。

議案第55号の質疑、討論、採決

○議長（後松一成君） 次に、日程第5、議案第55号 工事請負契約の締結についてを議題といたします。

質疑に入ります。質疑ありませんか。

5番、村田 薫君。

○5番（村田 薫君） 指名審査委員でございます助役に伺います。2点ございます。

耐震補強等の工事の場合は設計書どおりに行う単純工事と違いまして1級建築士、またはほかの現場等を兼務しない常勤の施工監理責任者がいなければならないが、業者選定に当たってはこれらのことは考慮されたということが1点です。されましたかどうか。

2点目は、今後、この町におきましては大小のたくさんの工事が行われていくことになりませんが、工事の妥当性を評価するような委員の設定などの考えはないものかの2点について伺います。

○議長（後松一成君） 佐々木助役。

○助役（佐々木敬治君） 村田議員のご質疑にお答えいたします。

まず第1点目の業者の指名審査につきましてご説明いたします。ご指摘の資格要件につきまして

ては地方自治法施行令第 16 条の 11 の規定によりまして指名競争入札の参加者の資格を定めることができるかとされております。つまり必要があるときは町長があらかじめ契約の種類や金額に応じまして工事、製造、または販売等の実績あるいは従業員の数、資本の額、その他の経営の規模、及び状況を要件とする資格を定めることができるということでありまして、今般の耐震補強工事につきましては、その特殊性にかんがみまして指名競争入札参加者の資格として議員ご指摘のとおり、1 級建築士及び 1 級建築施工監理技師の資格を有する技術者がいること。これを必要条件としました。

それから、2 点目の工事の妥当性を検証するための委員といった組織の設置につきましてお答え申し上げます。議員ご指摘の工事の妥当性を検証する機関につきましては、例えば我が美郷町よりも大きな自治体であります市レベルですとか、あるいはもっと大きい都道府県、こういったケースではこういった検査事務専従のセクションを設置いたしまして土木工事や建築工事などの検査担当員を配置している例があります。配置されております職員につきましては当然、技師として採用されたものでありまして、土木や建築に関する設計及び施工に関する専門的な知識や技術を有しておりまして、工事を執行する部署と検査をする部署が違うことがご指摘のとおり理想的な姿だと認識しております。しかしながら、我が美郷町のように規模の小さい自治体におきましては組織ですとか、職員数に制約がございますのでどうしても同一の部署で工事の執行、検査を兼務せざるを得ない状況にあること。したがって、工事の結果をしっかりと検証する立場にある職員の資質向上に努めることが肝要と考えております。どうかこういった内容でよろしくご理解を賜りますようお願いいたします。

○議長（後松一成君） 40 番、齊藤正衛君。

○40 番（齊藤正衛君） 二、三、伺います。関連してですけれども、一つ、まずお願いしたいことは、こういう説明書が出ておるんですけれども、これに落札率をひとつ記入していただきたいということがお願いでございます。

それと、中に書かれてある調査基準価格、これは設計額ということとはまた一つ違ったものなのかなと思うんですけれども、これはどういうものなのか。

また、予定価格を町が決める場合に県なり国とまでいかなくても何か指数のようなものとか、何かそういう同じような基準で予定価格というものが決められていくものなのか、その点を伺いたしたいと思います。

○議長（後松一成君） 総務課長。

○総務課長（森川福蔵君） お答えいたします。

落札率のことですが、資料で必要とあれば落札率を掲示したいと思います。

それから価格の問題ですが、これは特に規定されたものはございません。設計額とはまた違います。以上です。

○議長（後松一成君） 40番。

○40番（斉藤正衛君） 違いますと言われますけれども、調査基準価格というものはどのようなのでしょうか。設計額と違うということはわかりました。

○議長（後松一成君） 助役。

○助役（佐々木敬治君） 調査基準価格と申しますのは、もっと言いかえますと最低制限価格、これに相当するものでございます。ただ、美郷町の場合、最低制限価格といったことではなくて低入札制度との関連もありますけれども最低制限価格にかわるものとしてこの調査基準価格、これを設定してございます。

○議長（後松一成君） 10番、吉野 久君。

○10番（吉野 久君） この工事請負契約は繰越明許になりました六郷中学校の教室等の入札なんですけれども、非常に関連することで大切なことですので質問いたしますが、懸案の体育館につきましてはまだ解体、新築等の計画、いずれもないということを知り及びました。私、後援会活動で旧六郷町内を回っておりますと、父兄の間からあの体育館はどうなるんですかという質問がかなりございます。父兄にとりましては、立入禁止になっている建物が中学校内にあること自体、非常に不安に思っております。いつ地震が来るかわからないということで立入禁止にしていることですが、中に入っていないなくても危険な場合もあるわけです。いずれ新築という形になりますと教育債が該当するわけでしょうが、それは解体も含めて該当するのかどうか、そこら辺、私はわからないので何とも言えません。だから解体もしていないんじゃないかなというような答えもしておりますが、多分解体には教育債がつかないと私は考えているというか、思い違いなのかもしれません。だとすれば単独でも、とにかくこれから幾ら待ってもIs値が0.09から上がるわけではございません。改善されるわけではないので解体は必ず必要じゃないかと思うんですが、そこら辺、教育債が該当するののかという点と解体についての見通しをお願いします。（「議題から外れているんじゃないかと思えますけれども」の声あり）

○議長（後松一成君） まず参考までに答弁してください。学務課長。

○学務課長（高橋 薫君） ただいまの答弁にお答えしたいと思います。

まず現在、お話しされているとおり、基本構想策定が9月予定されておりますので、それまでの間ということで今現在、詳細について調査検討しているところでございます。

それから、危険ではないかというお話でございます。そのとおりでございますけれども、実は体育館と校舎との間では大体18メートルぐらい離れてございます。しかしながら、議員ご指摘のとおり、いつ何時地震が発生するかわからないということも事実でございますので、現在は子供たちに近づかないようにということで指導してございます。今後とも生徒たちが近づかないように屋外からの侵入禁止等の措置を講じてまいりたいと思います。

それから、解体の件でございますけれども、おっしゃるとおり、解体につきましては補助金、そういうものはつきません。ただ、方針が決定していない段階で今すぐ解体することは、方針決定後の事業に影響する可能性があり、どのような方向づけがこれから決まるという形になりますので、財政の観点から今すぐという形ではなくて学校としては危険回避の形をとらせていただいております。

○議長（後松一成君） 暫時休憩いたします。

（午前10時46分）

○議長（後松一成君） 休憩を解きまして本会議を進めます。

（午前10時47分）

○議長（後松一成君） 40番、斉藤正衛君。

○40番（斉藤正衛君） これも関連と言えば関連ですけれども、何日か前に県の圃場整備事業の件で最低落札価格に業者の多くが張りつくというようなこと、落札制限価格、そういうことが新聞等で報じられておりました。それについては県の方でも非常に建設業界、ごらんのとおり非常に厳しい状況になっておりますのでそれで非常に厳しい競争が起こったのではないかと、このように言われておりました。それで、このときの落札予定価格に対する落札率というのがたしか67%ぐらい、単純に町が行うこのような道路工事にしろ、耐震の工事にしろ、ほとんどが九十七、八%というあたりに、天井の方に張りつくわけですけれども、やはり住民の目から見た場合に談合とは言いませんけれどもそれを思わせるような、そういう部分はその新聞報道と比べて同じA級の業者が行っているわけですからなぜ町の方ではきちっとした競争原理が働かないのか、働い

てこういうものなのか、そういうような町民の方々の不信があるかと思うんです。その点について県の方と町では違うんだと言ってしまえばそれまでのことですけれども、町長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（後松一成君） 松田町長。

○町長（松田知己君） 入札事務を適正に行っていますので適正な競争の結果だと認識しております。

○議長（後松一成君） 40番。

○40番（斉藤正衛君） 以前、国なりが行った入札に関して談合事件というのが何回か報じられました。そして、この中で公正取引委員会がこれは談合であると認めたもの、これの不正利得が落札価格の18%が不正利得に当たると、このように認定されているそうでございます。私はこれから財政等がさらに厳しくなる中で、そして町の予算の非常に大きな部分を占めるこの入札にかかわる金額、これに対して、やはり町民から見ても明らかに競争原理が働いているんだということが見えるような、そういうような入札制度の確立というものがこれからは必要になってくるのではないかと思うんですけれども、町長、いかがでしょうか。

○議長（後松一成君） 松田町長。

○町長（松田知己君） 答弁の繰り返しになりますが、入札事務を適正に進めるということは議員がおっしゃったようなことを進めるという意味でありますのでご理解いただきたいと思えます。

○議長（後松一成君） 21番。

○21番（熊谷良夫君） 前の入札のときは、いわゆる予定価格を伏せていまして入札したわけがありますけれども、いろいろ不透明感があるということで予定価格の事前公表ということで、今回の場合は予定価格の大体 97.48%、非常に近い金額でありますけれども、私から見ますと、今まで予定価格を伏せていたときには不落ということがありまして不成立、現在も新潟や東京では不成立、事前価格を公表していますが不成立という入札が大変あります。そういう意味で考えますと、予定価格の算定というのはどの程度、自信あるものなのか。余りにも安過ぎるから本当に2%か3%引かなければ応札できない、そういう金額ではありませんか。ちょっと安過ぎるんではありませんか、予定価格が。

○議長（後松一成君） 答弁、松田町長。

○町長（松田知己君） 個別の事情によって違うかとは思いますが、予定価格が高過ぎることも安過ぎることもありませんで、ただどのような形で予定価格を設定しているかはこういった場で公表するような内容ではないと理解しておりますので、ご理解いただきたいと思えます。

○議長（後松一成君） ほかに質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 討論なしと認めます。

議案第 55号についてこれより採決いたします。

お諮りいたします。議案第 55号について原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 異議なしと認めます。

よって、議案第 55号 工事請負契約の締結については原案のとおり決しました。

議案第 56号の質疑、討論、採決

○議長（後松一成君） 日程第 6、議案第 56号 平成 17年度美郷町一般会計補正予算第 1号についてを議題といたします。

質疑に入ります。質疑ありませんか。

7番、谷屋誠市君。

○7番（谷屋誠市君） 12ページの行政推進費のことでお尋ねいたします。これは出会いの場創出事業のためにいろいろ出費しているということですが、これは登録してもらう、希望者に登録してもらうということですが、この登録者の目標はありますか。特に女性の登録者を確保するのが重要だと思うんですが、その対策などは考えているのでしょうか。

また、対象年齢はおおよそ何歳から何歳ぐらいを考えているのでしょうか。

○議長（後松一成君） 答弁、町長公室長。

○町長公室長（二藤誠祥君） それでは、谷屋議員の質問にお答えしたいと思います。

まず最初の質問であります。これについては確保するのは、この前もお話ししましたとおり、広報、チラシ、ホームページ、これを県内の市町村、出先の方にPRしたいと、そういうふうと考えております。それから、対象の件ですが、対象につきましては二十歳以上を無制限という形になるかと思っております。女性とか男性という考え方では今のところ、進んでございません。

どちらでも結構だということでございます。

○議長（後松一成君） 7番。

○7番（谷屋誠市君） それともう一つは、出会った後のフォローという点で以前、窓口で相談に乗るといようなお話を聞いた記憶がございますけれども、この相談業務は担当の係の人が行うのか、あるいは仲人などの経験がある人が行うのか、あるいはボランティアスタッフなどありますけれどもそういう人たちが行うのか、そこあたりはどう考えているのでしょうか。

○議長（後松一成君） 町長公室長。

○町長公室長（二藤誠祥君） ただいまのご質問にお答えしたいと思います。この件につきましては、いずれ27ページの資料を見ていただければおわかりだと思いますけれども、これはあくまでも出会いの場を創出することだけにとどめております。これは先般、3月の定例会で谷屋議員が質問された答弁として町長がお話ししておりますとおり、1年度中に出会いの場を創出していきたいというふうに話ししておるはずでございます。そういうことで今回は最後のアフターケアまでやるということではございません。あくまでも出会いの場を創出すると。このボランティアスタッフというのはボランティアスタッフに参加してそういうふうな形で参加していただきたいということでございます。あくまでもそういうことで出会いの場を創出することでございます。

○議長（後松一成君） 34番、熊谷隆一君。

○34番（熊谷隆一君） 27ページの文化財保護費、千屋断層保存観察施設整備検討委員報償、またその下の特別旅費も関係あるかと思っておりますけれども、逆断層である千屋断層については非常に学術的価値が高いということで県内外の注目を集めているところですが、一方、崩落もたびたび進んでこれまでも維持管理に苦慮してきたということを聞いております。この辺の状況を1点。

それから、旧千畑の振興計画、合併直前でございますけれども、この中で国の補助事業で展示施設の建設が計画されておると思っております。その進捗状況については町長にお伺いをいたします。

以上、2点お伺いいたします。

○議長（後松一成君） 最初に、社会教育課長。

○社会教育課長（小松 清君） お答えいたします。今、議員ご指摘のとおり、千屋断層の計画する部分については削った部分ですけれども大分崩壊が進んでおります。地下水とか雪の状況によって崩壊が進んでおります。今回補正に計上しておりますのは、壁面を一時的に土のうを積んで保護しておかないとこれ以上、崩壊が進んでせっかくの資料がだめになってしまうので、そうい

うことであります。

○議長（後松一成君） 松田町長。

○町長（松田知己君） 展示施設についてはこれまで文部科学省の補助事業対象になるかといったことをベースにしながら検討されている経緯を伺っております。ただ、美郷町として今、数ある文化教育施設を今後、どのような方向に持っていくのかというような方針を持ってそういった新たな施設の整備に向かわないと、施設のみふえていって維持管理等が大変になるということと、それから一つ一つの機能を集約化させた方が利用する側にとってもいいのではないかという議論もありまして、断層の展示施設のみにこだわった整備計画ではなくて全体的に今後の文教にかかわる施設のあり方をどうしたらいいのかということを経験した上で千屋断層の展示施設をどう位置づけるかというふうな部分をこれから議論してまいりたいと思っておりますので、現段階では計画のみの状況だということであります。

○議長（後松一成君） 補正予算案についての質疑途中でございますが、1時10分まで休憩いたします。

（午前11時00分）

○議長（後松一成君） 本会議再開いたします。

（午前11時10分）

○議長（後松一成君） 質疑を続行いたします。

27番、高橋福松君。

○27番（高橋福松君） 9ページをお願いします。実は農林振興費補助金ということで、金額をどうのこうという問題ではありませんけれども、私、ちょっとあれですけれども、フロンティアの農業者育成、新規とか後継者、または事業といいますか、農業に関するそういうものをして2年間の研修をするという事業ではないかと思うんですけれども、ここまではいいんです。それでそのとおりでいいんですけれども、これは果たしてこちらの行政の方でどうのこうという問題ないかもしれません。ただ、研修2年間終わってから、これは強制力もないし何もないし、その

仕事をせっかく研修してやった仕事から外れて単なる、いわばサラリーマンになってしまっている方が多いという話を聞きましたので、そういうものは公金支出があるかどうかちょっとわかりませんが、そうなる2年間、言葉は非常に汚い言葉ですけども給料をもらってただそこに2年間、勤めて、その後、別な会社に行ってせっかく研修された技術、こういうものが生かされない方が多いので非常に不公平ではないかと。そういうものに行政は補助なりなんなりをくれているのかという話を聞きましたので、その辺はどうなのかひとつお知らせと、ちょっと中身の把握できる部分で結構ですのでお願いしたいと思います。

○議長（後松一成君） 答弁、農政課長。

○農政課長（深澤 廣君） ただいまのご質問にお答えいたします。

現在行われているフロンティア農業者育成事業ですが、平成13年度から始まっております。その前にも制度の内容は違いますがあったと聞いております。それで、今ご質問の研修を終えた後で農業に従事しているかもしれませんが勤めとかに出ている方もいるというお話でございますが、現実をお話ししますと、この研修はいろんな内容の研修がありますが多分2年間の研修を指していることと思いますが、この研修に行く前には農政課、県の普及指導課、昔の普及所ですが、ここできちんと面接をして「あなたは2年間の研修を終えたらきちんと農業に従事して将来、頑張ってくださいか」ときちんと本人に確約をとります。それから、今、高校を出た方が4月から研修に入っておりますが、ここでも普及所はもとより卒業した高校でも2年間研修して「リタイアはだめなんだ。おまえ、将来、一生懸命頑張ってくださいこれで飯を食わねばできないんだ」ということを強く指導しております。そういう意味で私どもは2年の研修が終わった後で、何らかの事情はあるかもしれませんがリタイアするという前提で物事は進んでございません。少なくとも平成13年度の現在の制度が始まった以降にはそういう方は出ていないと聞いております。ちなみに美郷町管内では過去5名ですか、この研修を受けているようです。まだ研修中の方もございますが研修を終えた方はきちんと自分で勉強した農業について頑張っているところです。多分、議員ご指摘の者は、今の制度以前のものではないかと推測されますので、主管課でございます普及指導課ともそこら辺の過去の事例を聞いてみてこれからそういう事態が起こらないように頑張りたいと思います。以上です。。

○議長（後松一成君） ほかにございませんか。5番、村田 薫君。

○5番（村田 薫君） 12ページの2目19節のところですが、地域コミュニティー推進事業のことで、自治組織の集荷施設への助成が出ておりますけれども、千畑、仙南地域では比較的集荷施設が新しいものが多いわけですが、六郷地域に関しましては築35年を経過するなどしてありまし

てかなり部分修理では限界がある状況のものが多いです。それで、まず新築を考えてはおりませんが、けれどもいろいろな昨今の経済事情からかなり難しいところです。18年度以降、この制度そのものが継続されるのか、また補助金の上限 250万円ですけれども、これの増額云々について考えを伺います。

○議長（後松一成君） 町長公室長。

○町長公室長（二藤誠祥君） ただいまの質問にお答えしたいと思います。今現在のコミュニティーの補助金につきましては1年度で一応閉めるということになっております。新たにまたその件については予算の関係もございますので改めて検討したいと、そういうふうを考えております。いずれその際はよろしくお願ひしたいと思います。

○議長（後松一成君） 46番、竹村由広君。

○46番（竹村由広君） 23ページ、教育助成費についてお伺ひいたします。今回、奨学資金貸付金に関しまして申込者49名、うち高校生5名、短大生17名、大学生27名ということで貸付枠を拡大して今回貸し付けしたわけですが、当初予算の中の4,000万円とプラス今回の補助658万円足されまして4,658万円という形態になりました。これを今後、例えば申込者を今回断らずに全員貸し付けの対象にしたということですが、今後、そういう部分に関してはいいことだと思うんですが、どこら辺の上限を考えているのか、そこら辺、ちょっとお伺ひしたいと思います。

○議長（後松一成君） 学務課長。

○学務課長（高橋 薫君） 今のご質問にお答えします。奨学生の選定につきましては選定委員会の意見を聞きまして教育委員会で決めることになってございます。今回の場合、このような形で全員の方にとということで選定委員会を開きましたところ、予算があるとすれば貸し付けした方がいいのではないかという意見をいただきました。そこで、予算を今、今回補正したわけですが、それでもそういう形でございます。それからこのままずっと、いわゆる来たらその方々に全員貸すのかというご質問かと思ひますが、あくまでも現時点としては予算の範囲内と考えてございますけれども、この制度は合併前に3町村ですり合わせて決定したものでございまして、将来、有望な町民を育成するという目的を達成するために限りある財源をどのような形でこの事業を継続していくかということは今後、検討していかなければならないものと考えてございます。現時点としてはそういう考えでございまして、よろしくお願ひします。

○議長（後松一成君） ほかにございせんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 討論なしと認めます。

議案第 56号についてこれより採決いたします。

お諮りいたします。議案第 56号について原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 異議なしと認めます。

よって、議案第 56号 平成 17年度美郷町一般会計補正予算第 1号については原案のとおり決しました。

議案第 57号の質疑、討論、採決

○議長（後松一成君） 日程第 7、議案第 57号 平成 17年度美郷町国民健康保険特別会計補正予算第 1号を議題といたします。

質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 討論なしと認めます。

議案第 57号についてこれより採決いたします。

お諮りいたします。議案第 57号について原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 異議なしと認めます。

よって、議案第 57号 平成 17年度美郷町国民健康保険特別会計補正予算第 1号については原案のとおり決しました。

議案第58号の質疑、討論、採決

○議長（後松一成君） 日程第8、議案第58号 平成17年度美郷町簡易水道事業特別会計補正予算第2号を議題といたします。

質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 討論なしと認めます。

議案第58号についてこれより採決いたします。

お諮りいたします。議案第58号について原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 異議なしと認めます。

よって、議案第58号 平成17年度美郷町簡易水道事業特別会計補正予算第2号については原案のとおり決しました。

議案第59号の質疑、討論、採決

○議長（後松一成君） 日程第9、議案第59号 平成17年度美郷町下水道事業特別会計補正予算第1号についてを議題といたします。

質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 討論なしと認めます。

議案第59号についてこれより採決いたします。

お諮りいたします。議案第59号について原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 異議なしと認めます。

よって、議案第59号 平成17年度美郷町下水道事業特別会計補正予算第1号は原案のとおり決しました。

議案第60号の質疑、討論、採決

○議長(後松一成君) 日程第10、議案第60号 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについてを議題といたします。

質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 討論なしと認めます。

議案第60号についてこれより採決いたします。

お諮りいたします。議案第60号について原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 異議なしと認めます。

よって、議案第60号 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについては原案のとおり決しました。

議案第61号の質疑、討論、採決

○議長(後松一成君) 次に、日程第11、議案第61号 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについてを議題といたします。

質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長（後松一成君） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 討論なしと認めます。

議案第 61号についてこれより採決いたします。

お諮りいたします。議案第 61号について原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 異議なしと認めます。

よって、議案第 61号 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについても原案のとおり決しました。

請願第 4 号の委員長報告、質疑、討論、採決

○議長（後松一成君） 日程第 12、請願第 4 号 定率減税の縮小・廃止の中止を求める意見書採択に関する請願についてを議題といたします。

この請願の審査方を総務常任委員会に付託しておりますので、委員長の報告を求めます。総務常任委員長、吉野 久君。

（総務常任委員長 吉野 久君 登壇）

○総務常任委員長（吉野 久君） 6月7日、今定例会初日に総務常任委員会に付託されました請願第 4 号 定率減税の縮小・廃止の中止を求める意見書採択に関する請願の審査経過と結果をご報告申し上げます。

総務委員会では翌 6 月 8 日に委員会を開催し、この請願を審査いたしました。結果、この定率減税の縮小・廃止はすべての所得税、住民税の納税者に影響する大きな問題とし、全員賛成で採択すべきものと決しました。以上です。

○議長（後松一成君） ただいまの委員長報告に対して質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 討論なしと認めます。

請願第4号についてこれより採決いたします。

お諮りいたします。請願第4号についてただいまの委員長の報告のとおりこれを採択とすることにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 異議なしと認めます。

よって、請願第4号 定率減税の縮小・廃止の中止を求める意見書採択に関する請願についてはただいまの総務常任委員長の報告のとおり、これを採択とすることに決しました。

陳情第1号の委員長報告、質疑、討論、採決

○議長（後松一成君） 日程第13、陳情第1号 「市場化テスト」や「給与構造見直し」に反対する意見書の採択を求める陳情についてを議題といたします。

この陳情についても総務常任委員会に付託しておりますので、委員長の報告を求めます。総務常任委員長、吉野 久君。

（総務常任委員長 吉野 久君 登壇）

○総務常任委員長（吉野 久君） 3月定例会において総務常任委員会に付託され継続審査になっておりました陳情第1号 「市場化テスト」や「給与構造見直し」に反対する意見書の採択を求める陳情の審査経過と結果をご報告いたします。

総務委員会では去る4月6日、委員会を開催し、この陳情第1号を審査いたしました。初めに、この陳情内容に対しての所見を話し合いましたが、市場化テストに対しての意見が分かれ、この後の陳情審査にも影響することから慎重に議論を重ねました。その後、討論し、採決した結果、採択すべきもの1名、趣旨採択とすべきもの8名、継続審査とすべきもの2名となり、賛成多数で趣旨採択すべきものと決しました。

なお、討論を要約すれば、市場化テストは国民全体の財産を企業に売り渡すことであり、公共サービスを空洞化させることだ。また、公務員賃金に地域間格差を導入することにも反対なので採択すべきものとする意見と、この陳情内容に関しては学者間でも意見が違い、現在でも国政で議論が交わされている。また美郷町民の間でも賛否が分かれるものと思うので趣旨採択すべきものとする意見でした。以上です。

○議長（後松一成君） ただいま委員長報告に対して質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

賛成討論ですか、反対討論ですか。（「反対です」の声あり）32番、武藤 健君。

（32番 武藤 健君 登壇）

○32番（武藤 健君） 私は、本陳情第1号は内容からして採択し、意見を上げるべきものと考えます。したがって、委員長案には反対します。

○議長（後松一成君） ただいま反対討論がありました。

ほかにございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 討論なしと認めます。

反対討論がありましたので、これから採決に入りますが、採決は起立によって行いたいと思います。

委員長の報告のとおり、これを趣旨採択することに賛成の諸君の起立を求めます。

（起立多数）

○議長（後松一成君） 起立多数。

よって、この陳情第1号については趣旨採択とすることに決しました。

陳情第3号の委員長報告、質疑、討論、採決

○議長（後松一成君） 日程第14、陳情第3号 公共サービスの低下をもたらす「市場化テスト」（官民競争入札）の反対を求める陳情書についてを議題といたします。

この陳情の審査方も総務常任委員会に付託しておりますので、委員長の報告を求めます。総務常任委員長、吉野 久君。

（総務常任委員長 吉野 久君 登壇）

○総務常任委員長（吉野 久君） さきの陳情第1号と同じく3月定例会で継続審査となり、4月6日審査した陳情第3号 公共サービスの低下をもたらす「市場化テスト」（官民競争入札）の反対を求める陳情書の審査経過と結果をご報告いたします。

この陳情はさきに審査した陳情第1号の項目の一つと同じ内容です。本来なら陳情第1号と同じくみなし趣旨採択とすべきものですが、陳情第1号の二つの項目で意見が分かれたことを勘案し、改めて審査いたしました。

陳情内容については陳情第1号の審査で十分に議論を重ねているため、その意見の集約と討論を省略し、採決いたしました。

その結果、採択すべきもの1名、不採択とすべきもの3名、趣旨採択とすべきもの7名となり、賛成多数で趣旨採択すべきものと決しました。以上です。

○議長（後松一成君） ただいまの委員長報告に対して質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

3番、武藤 健君、反対討論ですか。（「はい」の声あり）

○3番（武藤 健君） この陳情第3号も内容からして採択すべきものと考えます。したがって、委員長案には反対します。

○議長（後松一成君） ほかに討論ありませんか。賛成討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 討論を終結いたします。

ただいま3番、武藤 健君から反対討論がありました。

これから採決に入りたいと思いますが、採決は起立によって行いたいと思います。

総務常任委員長の報告のとおり、これを趣旨採択とすることに賛成の諸君の起立を求めます。

（起立多数）

○議長（後松一成君） 起立多数。

よって、陳情第3号については趣旨採択とすることに決しました。

陳情第4号の委員長報告、質疑、討論、採決

○議長（後松一成君） 日程第15、陳情第4 住民の生活と地方経済を悪化させる公務員賃金の「地域給」反対を求める陳情書についてを議題といたします。

この陳情についても総務常任委員会に付託しておりますので、総務委員長の報告を求めます。

総務常任委員長、吉野 久君。

(総務常任委員長 吉野 久君 登壇)

○総務常任委員長(吉野 久君) ご報告いたします。この陳情第4号 住民の生活と地方経済を悪化させる公務員賃金の「地域給」反対を求める陳情書も陳情第1号、第3号と同じく3月定例会で付託され、4月6日審査した陳情です。さきの陳情第3号と同様に採決した結果、採択すべきもの6名、趣旨採択とすべきもの5名となり、賛成多数で採択すべきものと決しました。

○議長(後松一成君) ただいまの委員長報告に対して質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 討論なしと認めます。

これより採決いたします。

ただいまの委員長報告のとおり、これを採択することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 異議なしと認めます。

よって、陳情第4号 住民の生活と地方経済を悪化させる公務員賃金の「地域給」反対を求める陳情書については、ただいまの総務常任委員長の報告のとおり、これを採択することに決しました。

陳情第5号の委員長報告、質疑、討論、採決

○議長(後松一成君) 日程第16、陳情第5号 確実な税源移譲、交付税の拡充による自治体財政の確立、公務・公共業務を後退させる「市場化テスト」反対、地域経済等に悪影響を及ぼす「給与見直し」に反対することを求める陳情書についてを議題といたします。

この陳情も総務常任委員会に付託しておりますので、委員長の報告を求めます。総務常任委員長、吉野 久君。

(総務常任委員長 吉野 久君 登壇)

○総務常任委員長(吉野 久君) 3月定例会において総務常任委員会に付託され継続審査になっ

ていた最後の陳情第5号 確実な税源移譲、交付税の拡充による自治体財政の確立、公務・公共業務を後退させる「市場化テスト」反対、地域経済等に悪影響を及ぼす「給与見直し」に反対することを求める陳情書についての審査経過と結果をご報告いたします。

この陳情第5号も4月6日審査いたしました。陳情内容は三位一体改革での確実な税源移譲を求める内容を主とし、あわせて「市場化テスト」と地域給に反対するものです。委員会ではこれまでの陳情審査結果を尊重しながら改めて意見を集約し、審査いたしました。

その結果、自治体財政の確立の観点から全員賛成で採択すべきものと決しました。なお、この陳情第5号の採択を受けて作成した意見書案は一連の陳情審査で趣旨採択とした「市場化テスト」に対する部分を除いたものとなっております。以上です。

○議長（後松一成君） ただいまの委員長報告に対して質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 討論なしと認めます。

陳情第5号についてこれより採決いたします。

お諮りいたします。陳情第5号についてただいまの委員長の報告のとおり、これを採択とすることに異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 異議なしと認めます。

よって、陳情第5号 確実な税源移譲、交付税の拡充による自治体財政の確立、公務・公共業務を後退させる「市場化テスト」反対、地域経済等に悪影響を及ぼす「給与見直し」に反対することを求める陳情書については総務常任委員長の報告のとおり、これを採択することに決しました。

陳情第8号の委員長報告、質疑、討論、採決

○議長（後松一成君） 日程第17、陳情第8号 国土調査事業の県内業者育成に関する陳情書についてを議題といたします。

この陳情の審査方も総務常任委員会に付託しておりますので、総務常任委員長の報告を求めます。総務常任委員長、吉野 久君。

(総務常任委員長 吉野 久君 登壇)

○総務常任委員長(吉野 久君) ご報告いたします。この陳情第8号 国土調査事業の県内業者育成に関する陳情書も一番最初に審査いたしました請願と同じく今定例会の初日7日に付託され、翌8日、審査した陳情でございます。

結果、県内業者の育成は必要なことと判断し、全員賛成で採択すべきものと決しました。

○議長(後松一成君) ただいまの委員長の報告に対して質疑に入ります。質疑ありませんか。高橋久男君。

○30番(高橋久男君) 審査の経過について1点だけ委員長にお尋ね申し上げたいと思います。この陳情の趣旨は地元業者を育成という趣旨でございます。陳情書でございますけれども、日本国土調査測量協会秋田県協会ということなんですけれども、この測量協会という団体なんですけれども、この団体にいわゆるどのような方々が会員になっているのかということをお知らせください。

○議長(後松一成君) 総務常任委員長。

○総務常任委員長(吉野 久君) この調査、日本国土調査測量協会というのは、こういう資格を持った方々が会員になっていると把握しております。実際にはどういう方が会員なのかは名簿等は調べておりません。

○議長(後松一成君) 高橋久男君。

○30番(高橋久男君) この会員は私なりに調査しましたけれども、秋田県の測量士登録業者で構成されている会だそうです。私がお尋ねしたいのは、審査の過程、たしか地元業者を育成という趣旨はわかるんですけれども、この団体に測量士の登録をする業者の何名の方々がこの協会に参加、会員になっているのかということによって地元業者の育成ということの意義が私は違ってくるんだと思います。もうちょっと具体的に申し上げますけれども、皆さん、総務常任委員会で慎重に審査したことだと思うんですけれども、この美郷町でこの測量協会に加入している会員はおりますか、調査しましたんですか。

○総務常任委員長(吉野 久君) 会員の資格、それからどこに事務所を構えているのか、そういう内容につきましては審査の中では話が出ませんでした。ただ、この陳情書の内容につきまして委員のみんながそれこそ意見を集約し、これは必要なことだという観点で全員賛成で採択という結果になりました。ただ、手元に資料はございます。それから、私、個人的にもいろいろこの協

会の中身、それからどういう方が参加しているのかは私が個人的には調べました。ただそこにつきましてはここで発言する内容ではないと考えます。委員会で審査したそのものを発言すべきものと委員長としてはそのように考えております。

○議長（後松一成君） 高橋久男君。

○30番（高橋久男君） 私、議会というのは、ご承知のように委員会付託が非常に尊重すべき委員会審査だと思います。しかしながら、私の申し上げたいのは、あえて本会議の初日に審査を付託されたものが陳情者においていただいて内容を精査しながら具体的に地元業者、具体的には美郷町の業者がどのようにかわりを持つのか、どのように活性化につながるのか、地元業者を育成するのかという視点からもやっぱり調査していただきたかったなという率直な気持ちで申し上げましたので、委員長の報告は理解しております。

○議長（後松一成君） 陳情者、顔を見せておりませんのでそれにお答えするというわけにはいきませんので、ご理解を願いたいと思います。

○30番（高橋久男君） 陳情者がお見えになっていないということについては異論がございます。当然、陳情の趣旨によって陳情を受けた委員会が責任で陳情者においていただいて参考人として来ていただいて調査する義務があります。そういう過程の上での審査であれば非常に意義がありますけれども、議長のおっしゃるように陳情者が来ていないからそれでいいという趣旨、考え方については若干異論があるということをおし添えておきます。

○議長（後松一成君） 陳情そのものだって郵送してくるものだってあるから、とても委員会あるから東京から来てくれないかと言ったって。（「必要に応じて呼ぶべきでないかという趣旨です。結構です」の声あり）参考までに聞いておきます。

ほかにございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 討論なしと認めます。

陳情第8号について採決いたします。

お諮りいたします。陳情第8号についてただいまの委員長の報告のとおり、これを採択することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 異議なしと認めます。

よって、陳情第8号 国土調査事業の県内業者育成に関する陳情書についてはただいまの総務常任委員長の報告のとおり、これを採択することに決しました。

陳情第9号の委員長報告、質疑、討論、採決

○議長（後松一成君） 日程第18、陳情第9号 「骨太方針2005」において住民本位の地方財政確立に向けた意見書採択を求める陳情書を議題といたします。

この陳情書の審査方も総務常任委員会に付託しておりますので、委員長の報告を求めます。総務常任委員長、吉野 久君。

（総務常任委員長 吉野 久君 登壇）

○総務常任委員長（吉野 久君） 今定例会において総務委員会に付託された陳情第9号 「骨太方針2005」において住民本位の地方財政確立に向けた意見書採択を求める陳情書の審査経過と結果をご報告申し上げます。

この陳情につきましても8日、審査いたしました。結果、地方自治体の立場からぜひ採択すべきとの意見があり、全員賛成で採択すべきものと決しました。以上です。

○議長（後松一成君） ただいまの委員長の報告に対して質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 討論なしと認めます。

陳情第9号についてこれより採決いたします。

お諮りいたします。陳情第9号についてただいまの委員長の報告のとおり、これを採択とすることに異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 異議なしと認めます。

よって、陳情第9号 「骨太方針2005」において住民本位の地方財政確立に向けた意見書採択を求める陳情書については、ただいまの総務常任委員長の報告のとおり、これを採択することに

決しました。

暫時休憩いたします。

(午前 11 時 49 分)

○議長(後松一成君) 休憩を解きまして本会議を再開いたします。

(午前 11 時 50 分)

○議長(後松一成君) ただいま配付いたしました追加日程のとおり議案が提出されております。
これを日程に追加したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 異議なしと認めます。

よって、日程に追加して議題とすることに決定いたしました。

暫時休憩いたします。

(午前 11 時 51 分)

○議長(後松一成君) 休憩を解きまして本会議を再開いたします。

(午前 11 時 52 分)

発議第 6 号の上程、採決

○議長(後松一成君) 追加日程第 1、発議第 6 号 美郷町議会委員会条例の一部改正についてを上程し、議題といたします。

事務局長が議案を朗読いたします。事務局長。

(事務局長朗読)

○議長(後松一成君) お諮りいたします。ただいまの発議案については、このとおり運営委員会の賛成者をもちまして提出しておりますが、会議規則39条第2項の規定によって説明を省略し、質疑、討論も省略したいと思っておりますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(後松一成君) お諮りいたします。本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 異議なしと認めます。

よって、発議第6号 美郷町議会委員会条例の一部改正については原案のとおり決しました。

発議第7号の上程、採決

○議長(後松一成君) 追加日程第2、発議第7号 美郷町議会会議規則の一部改正についてを上程し、議題といたします。

議案を朗読いたします。事務局長。

(事務局長朗読)

○議長(後松一成君) お諮りいたします。ただいまの発議案は、会議規則第39条の規定によって提出者の説明を省略し、質疑、討論についても省略したいと思っておりますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 異議なしと認めます。

お諮りいたします。本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 異議なしと認めます。

よって、発議第7号 美郷町議会会議規則の一部改正については原案のとおり決しました。

発議第8号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（後松一成君） 次に、追加日程第3、発議第8号 公共事業全体枠の確保を求める意見書の提出についてを上程し、議題といたします。

議案を朗読いたします。事務局長。

（事務局長朗読）

○議長（後松一成君） 提出者の熊谷良夫君から説明を求めます。熊谷良夫君。

（21番 熊谷良夫君 登壇）

○21番（熊谷良夫君） 皆様のお手元に差し上げております別紙の意見書案のとおり内容でございます。これは昨年、合併前にそれぞれの議会で採択していただいたものと同じ内容の意見書であります。この地域の道路網の整備のための満場一致のご採択、よろしく申し上げます。

○議長（後松一成君） ただいまの提出者熊谷良夫君の説明に対する質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 討論なしと認めます。

これより採決いたします。

お諮りいたします。発議第8号 公共事業全体枠の確保を求める意見書の提出について提出者の説明のとおり、また原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 異議なしと認めます。

よって、発議第8号 公共事業全体枠の確保を求める意見書の提出については原案のとおり決しました。

発議第9号の上程、採決

○議長（後松一成君） 追加日程第4、発議第9号、住民の生活と地方経済を悪化させる公務員賃金の「地域給」に反対する意見書の提出についてを上程し、議題といたします。

議案を朗読いたします。事務局長。

(事務局長朗読)

○議長(後松一成君) この発議についても会議規則第39条第2項の規定によって提出者の説明を省略し、質疑、討論についても省略したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 異議なしと認めます。

これより採決に入ります。

お諮りいたします。発議第9号 住民の生活と地方経済を悪化させる公務員賃金の「地域給」に反対する意見書の提出について、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 異議なしと認めます。

よって、発議第9号 住民の生活と地方経済を悪化させる公務員賃金の「地域給」に反対する意見書の提出については原案のとおり決定いたしました。

発議第10号の上程、採決

○議長(後松一成君) 追加日程第5、発議第10号 確実な税源移譲、交付税の拡充による自治体財政の確立、地域経済等に悪影響を及ぼす「給与見直し」に反対することを求める意見書の提出についてを上程し、議題といたします。

議案を朗読いたします。事務局長。

(事務局長朗読)

○議長(後松一成君) お諮りいたします。この発議案についても提出者の説明を省略し、質疑、討論についても省略したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 異議なしと認めます。

これより採決いたします。

お諮りいたします。発議第10号 確実な税源移譲、交付税の拡充による自治体財政の確立、地域経済等に悪影響を及ぼす「給与見直し」に反対することを求める意見書の提出について原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長（後松一成君） 異議なしと認めます。

よって、発議第10号 確実な税源移譲、交付税の拡充による自治体財政の確立、地域経済等に悪影響を及ぼす「給与見直し」に反対することを求める意見書の提出については原案のとおり決しました。

発議第11号の上程、採決

○議長（後松一成君） 追加日程第6、発議第11号 定率減税の縮小・廃止を中止することを求める意見書の提出についてを上程し、議題といたします。

議案を朗読いたします。事務局長。

（事務局長朗読）

○議長（後松一成君） この発議案についても提出者の説明はもちろんでありますが、質疑、討論も省略したいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 異議なしと認めます。

これより採決に入ります。

お諮りいたします。発議第11号 定率減税の縮小・廃止を中止することを求める意見書の提出については原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（後松一成君） 異議なしと認めます。

よって、発議第11号 定率減税の縮小・廃止を中止することを求める意見書の提出については原案のとおり決しました。

発議第12号の上程、採決

○議長（後松一成君） 追加日程第7号、発議第12号 「骨太方針2005」において住民本位の地方財政確立に向けた意見書の提出についてを上程し、議題といたします。

議案を朗読いたします。事務局長。

(事務局長朗読)

○議長(後松一成君) この発議案についても提出者の説明はもちろんでありますが、質疑、討論も省略したいと思います。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 異議なしと認めます。

これより採決にいたします。

お諮りいたします。発議第12号「骨太方針2005」において住民本位の地方財政確立に向けた意見書の提出について原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 異議なしと認めます。

よって、発議第12号「骨太方針2005」において住民本位の地方財政確立に向けた意見書の提出については原案のとおり決しました。

委員会報告第3号の上程、採決

○議長(後松一成君) 追加日程第8、委員会報告第3号を上程し、議題といたします。

総務常任委員長から閉会中の継続審査報告書が提出されております。お手元に配付してありますとおりでございます。これをもって委員長報告にかえたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 異議なしと認めます。

よって、このとおり決定をいたします。

議員派遣の件について

○議長(後松一成君) 追加日程第9、議員派遣の件についてを上程し、議題といたします。

地方自治法第100条第12項及び美郷町議会会議規則第119条の規定により、お手元に配付して

おります議員派遣について次のとおり議員を派遣したいと思いますが、このことにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 異議なしと認めます。

よって、議員を派遣することに決しました。

閉会中の継続審査及び継続調査について

○議長(後松一成君) 追加日程第10 閉会中の継続審査及び継続調査についてを議題といたします。

議会運営委員長より、会議規則第75条の規定により閉会中の継続審査及び継続調査の申し出がありました。

お諮りいたします。ただいま運営委員長から申し出のありましたとおり決定することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(後松一成君) 異議なしと認めます。

よって、ただいまの運営委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査及び継続調査とすることに決定いたしました。

閉会の宣告

○議長(後松一成君) 以上で今回の定例会に付議されました事件は、おかげさまで全部議了されました。

会議を閉じます。

これもちまして平成17年第4回美郷町議会定例会を閉会いたします。

ご苦労さまでした。

(午後 0時10分)

地方自治法第123条の規定により下記に署名する。

平成 年 月 日

美郷町議会議長 後 松 一 成

署名議員 小 田 長 輝 一

署名議員 泉 繁 夫